

# 家庭との連携・支援の充実について



## 家庭との連携・支援の充実に関する現状と課題

- 乳幼児の健やかな成長のために、幼児教育施設と家庭とが連携することが必要不可欠であるが、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について、保護者に十分理解されていない場合があるのではないかと指摘がある。
- 少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化等を背景に、特に幼稚園に在園する幼児の保護者は、入園まで、子育てに関する悩みや不安を相談する場や機会が限られているとの指摘もあり、在園児の保護者に限らず、0～2歳の未就園児の保護者も、幼児教育施設が連携し支える対象である。



## 家庭との連携・支援の充実に向けた方向性（案）

- 子育ての主体者である保護者と幼児教育の専門性を有する幼児教育施設とが、それぞれの立場から乳幼児の育ちや学びを共に支えることが重要である。幼児教育施設においては、そうした家庭との連携について一層の充実を図るとともに、国においても、その重要性を、幼児教育施設はもちろん、保護者にも十分理解されるよう周知するべきではないか。
- 具体的には、幼児教育施設においては、日常的なやり取りや計画・記録等の掲示・配布を通じて、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について共通理解を図るとともに、保護者の子育てを支える取組の充実を図ることが重要ではないか。
- 特に幼稚園においては、在園児及びその保護者だけでなく、園庭・園舎の開放、未就園児の親子登園、公開講座の開催、「こども誰でも通園制度」を活用した取組等により、来園した乳幼児に対して質の高い幼児教育を提供するとともに、その保護者に対しても、乳幼児の育ちや学びを共に支える関係性を築くことが重要ではないか。  
 （具体的なイメージ）
  - ・乳幼児に対して、乳幼児期にふさわしい遊びを存分に体験できる環境を提供するとともに、幼児教育の専門性に基づく関わりや援助を行う  
 →保護者の幼児教育への理解を促進するとともに、我が子との関わり方のモデルを提供する
  - ・乳幼児にとって、保護者との関係を基盤に、他の乳幼児と関わる場になる  
 →保護者にとって、他の乳幼児とも関わる場、かつ、その保護者との交流の場になる  
 →保護者においては、我が子と他の乳幼児の姿を見比べ、安心したり悩んだりする場合があるが、そうした反応に対して、幼稚園教諭等が相談に応じたり必要な情報を提供したりする
- こうした家庭との連携・支援に当たっては、保護者が我が子の姿を肯定的に捉え、その成長や可能性に気付き、子育てを楽しみ、ひいては保護者自身のウェルビーイングにも繋がるという観点を大切にするべきではないか。

